

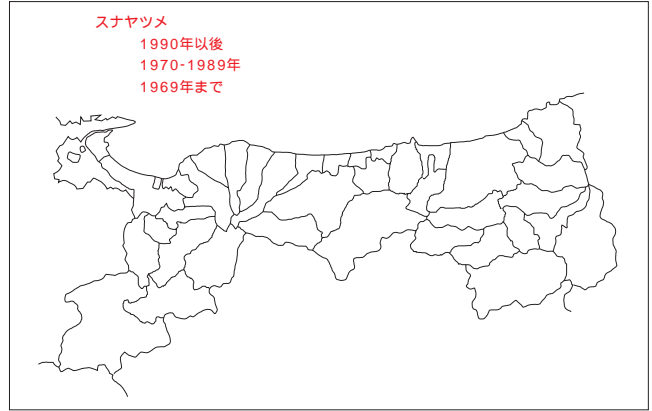
スナヤツメ ヤツメウナギ目ヤツメウナギ科
Lethenteron reissneri (Dybowski, 1869)

鳥取県：絶滅危惧II類(VU)

環境省：絶滅危惧II類(VU)



淀江町本宮 / 撮影：宇都宮妙子・岡田 純



選定理由：県内の限られた河川に生息し、個体数も少ない。水際部の砂泥地を好んで生息するため、河川改修や大規模な出水などによる打撃を受けやすい。

形態と生態：全長20cm程度。成魚の口器は吸盤状で内側に3対の歯がある。幼生・成魚ともに頭部には7対の鰓穴がある。幼生時には吸盤がなく、眼も皮膚の下に隠れている。全長15cm程度で成魚に変態する。

分布(県内)：千代川、天神川、日野川の中流域および淀江町本宮。生息地は限定される傾向があるが、実態調査は不十分である。

分布(県外)：北海道、三浦・伊豆半島を除く本州、四国、鹿児島県・宮崎県を除く九州；中国北部、朝鮮半島、ロシア

ア沿海州。

生息環境：河川中流域の淵尻や平瀬の砂泥底に生息し、底にたまった落ち葉などの有機物を食べる。

保護上の留意点：河床に砂泥を確保しておく必要がある。また、砂泥中に落ち葉などが堆積できる流水を確保し、生息地を干上がらせてしまわないような配慮が必要である。

文献：安藤重敏(1994)鳥取県天神川水系の魚類。鳥取県立博物館研究報告, 31: 33-46.

建設省鳥取工事事務所(1980)千代川の生物。pp. 33-34.

執筆者：安藤重敏

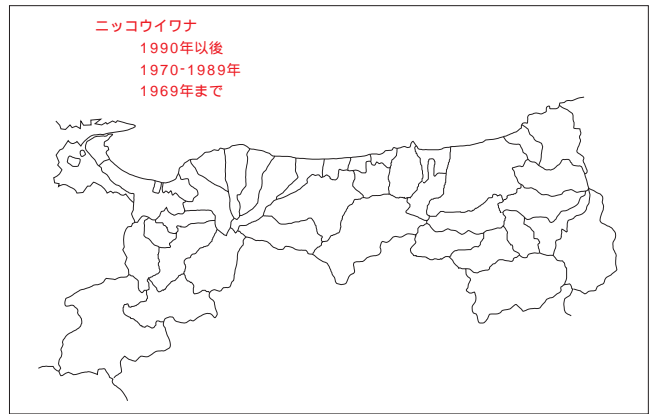
ニッコウイワナ サケ目サケ科
Salvelinus leucomaenis pluvius (Hilgendorf, 1876)

鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：-



三朝町吉原, 三徳川 1994.6 / 撮影：中前雄一郎



選定理由：県内の山地溪流に生息地が限定され、個体数も少ない。生息地である溪流周辺の針葉樹拡大造林が進み、餌動物の減少とともに生息域の減少が心配される。

形態と生態：ゴギ、アメマス(いわゆるイワナ)、ヤマトイワナと同様に広義のアメマス(*Salvelinus leucomaenis*)の1地方型(亜種)に相当。全長約20-30cm。体側に腫とほぼ同じ大きさの淡黄色の斑点が側線から腹側にある。しかし、その色調は変異に富み、地域差が著しい一方、他亜種との境界はしばしば不明瞭。県内では標高900m前後の山地を水源とする河川で、標高がおよそ400m以上の上流域に生息すると考えられる。

分布(県内)：県南西部をのぞく全域の山地。

分布(県外)：山梨県富士川および鳥取県日野川以東・以

北の本州各地。日本固有亜種。

生息環境：山地の溪流

保護上の留意点：工事等による法面の崩落や土砂投棄の回避と、従来からのS型淵の維持が重要である。また、産卵期には、小さな沢へ移動するため、落差構築物の設置は個体群の存続に重大な影響を与える。また、亜種・型間交雑を避けるため、自然繁殖個体群のみられる河川では同一個体群由来以外の種苗放流をおこなうべきでない。

文献：鈴野藤夫(2001)魚名文化圏 イワナ編。pp. 180-201. 東京書籍(東京)。

執筆者：安藤重敏

ゴギ サケ目サケ科

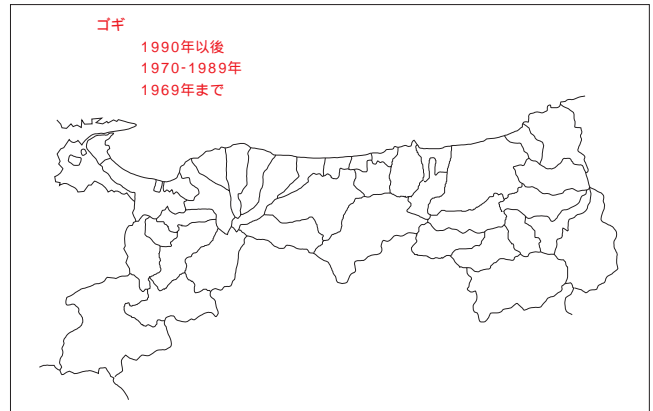
Salvelinus leucomaenis imbricus Jordan & McGregor, 1925

鳥取県：絶滅危惧 II 類(VU)

環境省：地域個体群(Lp)



萩山川 1998年



選定理由：鳥取県の西部が分布東限地。日野川の最上流部のいくつかの支流に生息し、イワナ（アメマス）の放流や開発によって減少の一途をたどっている。西中国地方のイワナ（ゴギ）は環境省RDBで絶滅のおそれのある地域個体群。

形態と生態：背面，側面ともに淡黄赤色が強い。体側に白色の斑紋と淡い赤色ないし黄色の斑紋があり，不明瞭なパー・マークもみられる。ニッコウイワナの白色斑は小さく丸みを帯びたものが多いが，ゴギのそれは大きく長丸に扁平している場合が多く，背面は流れて，くの字型になるものがあり，頭頂部にまでおよぶ。降海せず，一生河川で過ごし，水生昆虫などを捕食する。流れのゆるやかな淵底にいる場合が多い。体は小さく，産卵魚でも15cm前後のものが多い。晩秋に上流の細流に遡上し，産卵する。

分布(県内)：日野川の西側のいくつかの支流の最上流部。放流イワナのため，日野川の上流部には，イワナとゴギの中間の特徴をもったものがみられる。日野川の西側の支流

ほどゴギの特徴の顕著な個体が多い。

分布(県外)：島根県，山口県，広島県，岡山県。

生息環境：標高400m以上の水温の低い溪流で落ち込みを中心に生活。

保護上の留意点：個体数は非常に少ない。最上流部の細流にかろうじて生き残っている状況である。また，放流イワナとの自然交配がおこなっていると考えられる。保護区を設定して，イワナの放流と釣りを禁止するとともに，住民への啓発と溪流環境の保全・再生の必要性を感じる。

文献：

前川光司（1989）サケ・マス類の生活多型と種内分化．pp. 112-123. In: 水野信彦・後藤 晃（編）日本の淡水魚類. 東海大学出版会.

宮倉 誠（1993）ゴギ. pp. 94-95 . In: 鳥取県のすぐれた自然(動物)

執筆者：宮倉 誠

ヤマメ・サクラマス サケ目サケ科

Oncorhynchus masou masou (Brevoort, 1856)

鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：-



ヤマメ / 撮影：内藤順一



サクラマス / 撮影：内藤順一

選定理由：近年の本種の放流や過去のアマゴの放流により，野生種との交雑が起こり，純粋な野生種個体群の存続は危機的な状況にある。

形態と生態：全長20cm程度。側線の上に7-10個の黒い楕円斑紋（パー・マーク）がある。河川に残留する個体はふ化後2年で成熟し，海へ降下する個体は，さらに海で約1年半の間生活した後の春に全長50cm前後に成長して川をさ

かのぼる。ヤマメ・サクラマス *O. masou masou* とアマゴ・サツキマス *O. masou ishikawae* は同一種の地理的品種（亜種）（分布域は前者が日本海側，後者が神奈川以西の太平洋側と瀬戸内側の本州，瀬戸内側九州）の関係。それぞれの亜種の中では，ヤマメとアマゴは河川残留型，サクラマス，サツキマスは降海型に相当する。1970年以降，九州や中国地方では移植や放流によるヤマメの分布域へのアマゴ

の侵入が目立ち、問題となっている。

分布(県内)：県内各地。一級・二級河川に生息する個体群は放流個体群と交雑している可能性が高い。しかし、それ以外の小河川に生息する個体群は野生種個体群の可能性はある。

分布(県外)：北海道，神奈川県以北と日本海側の本州，日本海側・東シナ海側（大分県・宮崎県の一部を含む）の九州；アムール川，カムチャツカ半島，朝鮮半島。

生息環境：河川中・上流域の川幅のある比較的開けた淵，岩陰などを主な生活場所とし，落下あるいは流下する陸生・水生昆虫類を好んで食べる。

保護上の留意点：河道のコンクリート化や河床の均一化および水際部の植物の伐採は極力回避すべきである。またアマゴの放流やアマゴと交雑したヤマメ個体群の別河川への移入も是非とも避けなければならない。

文献：

安藤重敏（1994）鳥取県天神川水系の魚類．鳥取県立博物館研究報告，31：33-46．

鈴野藤夫（2001）魚名文化圏 ヤマメ・アマゴ編．pp. 240-251．東京書籍（東京）．

執筆者：安藤重敏

ヤリタナゴ コイ目コイ科 *Tanakia lanceolata* (Temminck & Schlegel, 1846)

鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：-

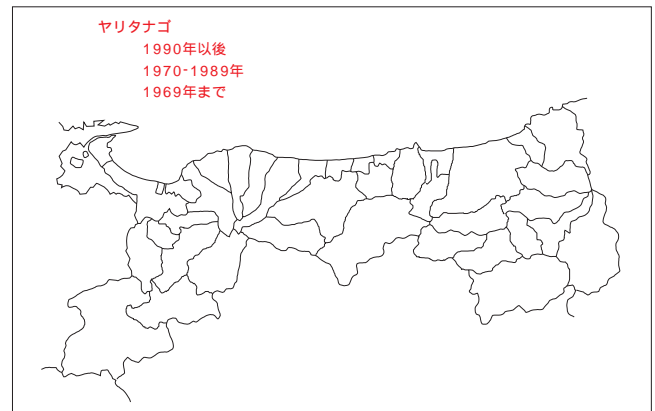


雄 撮影：内藤順一

選定理由：タナゴ類は大型の淡水二枚貝類に卵を産み付ける習性がある。近年は、用水路等のコンクリート化が進み，二枚貝類の生息環境が失われつつあるとともに，近縁の移入種であるタイリクバラタナゴ *Rhodeus ocellatus ocellatus* の増加により本種が駆逐される傾向にある。

形態と生態：全長10cm程度。体は側扁し，1対の口ひげがある。繁殖期の雄は吻端に追星を生じ，婚姻色も著しい。雌が伸張した産卵管で貝類の出水管に産卵したのち，雄が入水管に放精する。

分布(県内)：調査不十分であるが，蒲生川（岩美町），千代川平野部支流，湖山池周辺，白兔内海川（以上，鳥取市），天神川（倉吉市），法勝寺川（米子市，西伯町）など生息確認されている。



分布(県外)：本州，四国，九州北部；朝鮮半島。

生息環境：平野部の小河川や用水路などの流れの緩やかな場所。

保護上の留意点：産卵床となる二枚貝類を保護する必要がある。また，タナゴ類は河川本流よりも，これに流入する用水路や池などに生息するため，それら水域の連続性を確保する配慮が必要である。さらに，魚食性の大型淡水魚類であるオオクチバスなどの移植は厳に慎まなければならない。

文献：

建設省鳥取工事事務所（1980）千代川の生物．36 pp.

執筆者：安藤重敏

アカヒレタビラ コイ目コイ科
Acheilognathus tabira subsp. R

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類(CR + EN)

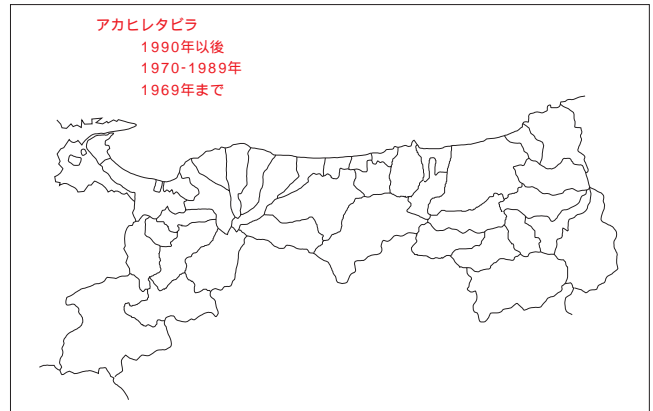
環境省：地域個体群(Lp)



選定理由：近年，用水路等のコンクリート化や河川改修に伴い，産卵床の二枚貝類の生息環境が失われつつある。本県のアカヒレタビラの生息場所はきわめて限定され，その生息は危機的状況にある。「山陰地方のアカヒレタビラ」は環境省RDBで絶滅のおそれのある地域個体群。

形態と生態：全長8cm程度。体は淡い青紫色であり，えらぶた後方の肩部に円形の淡青色の斑点がある。さらに，雄の尻びれ外縁が赤くなることにより，タビラ*A. tabira*の他の亜種（シロヒレタビラ*A. tabira tabira*，セボシタビラ*A. tabira* subsp. S）と区別できる。肩部の斑点は，ホルマリン標本では明瞭になる。山陰地方からは1980年に鳥取県多鯰ヶ池で初めて確認され，その後，島根県でも報告された。多鯰ヶ池ではその直後からのブラックバスの放流のためか，その後確認されず，すでに絶滅しているおそれが強い。

分布(県内)：日野川水系の一部（米子市法勝寺川，新加茂川），多鯰ヶ池（鳥取市・福部村：当地では現在は確認できない）。



分布(県外)：東北・関東・北陸，山陰地方（西は島根県大田市まで）。日本固有亜種。

生息環境：おもに平野部の湖沼や流れの緩やかな水域を好む。

保護上の留意点：産卵床となる二枚貝類を保護する必要がある。また，魚食性の大型淡水魚類であるオオクチバスなどの移植は厳に慎まなければならない。生息状況についての情報が乏しいため，早急の実態調査を行う必要がある。

文献：

安藤重敏(1993)アカヒレタビラ．pp. 96-97．In: 鳥取県のすぐれた自然(動物)。

長田芳和・藤川博史・福原修一(1981)鳥取県多鯰ヶ池で採集されたアカヒレタビラについて．日本生物地理学会会報，36：48-53．

執筆：安藤重敏

スジシマドジョウ小型種山陰型 コイ目ドジョウ科
Cobitis sp. S, San-in Form

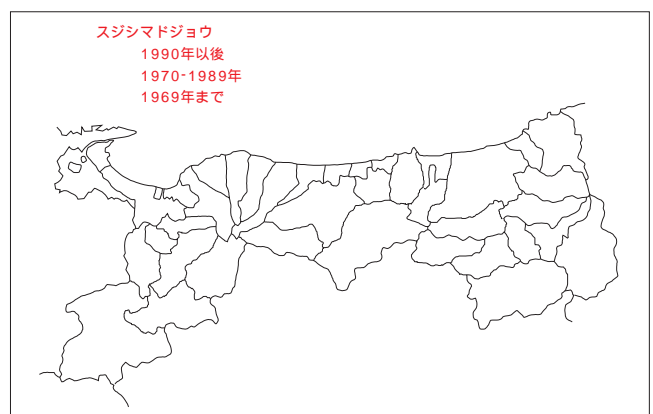
鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)



選定理由：生息範囲が限定され，個体数も少ない。

形態と生態：スジシマドジョウ（以前の"*Cobitis taenia striata*"）は近畿地方から山口県東部までの本州と四国の瀬戸内側，それに朝鮮半島南部に分布するが，生殖隔離の発達や染色体数の倍数化をもとまなう複雑な地理変異を示し，現在は3種（大型種，中型種，小型種）8型が認識されている。小型種は東海地方，琵琶湖，淀川水系，山陽地方，山陰地方，九州有明海側に隔離分布し，それぞれの地域に地理的品種を産み出している。山陰型はその一つで，島根



県の出雲平野から兵庫県岸田川にかけて分布する。全長5cm程度。体は細長い筒型で3対の口ひげがあり，尾びれの斑紋は，整然と並び3-5列の細い横帯となる。県内では限られた一級・二級河川中流域の淵尻から平瀬にかけての砂礫底で確認されている。産卵期は6-7月。

分布(県内)：鳥取市（金沢，良田），岩美町（恩志），郡家町（下門尾），佐治村（森坪），倉吉市（山根，蔵内，穴沢），北条町（米里），米子市（榎原），西伯町（阿賀）から記録がある。

分布(県外): 兵庫県岸田川から島根県神戸川までの山陰地方。

生息環境: 平野部の水のきれいな河川中流域の淵の岸寄りかけ上がりから淵尻にかけての砂礫底。

保護上の留意点: 河床改修や護岸改修に際しては、砂礫底をなくさない配慮が必要。また、落差構築物の設置は極

力さけるべき。

文献:

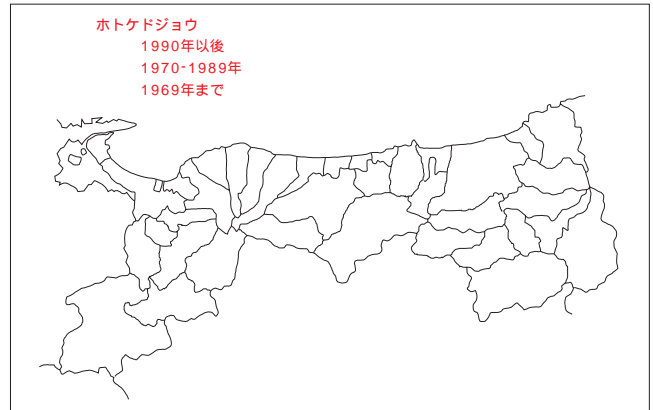
安藤重敏(1995)鳥取県日野川水系の魚類。鳥取県立博物館研究報告, 32: 1-14.

執筆者: 安藤重敏

ホトケドジョウ コイ目ドジョウ科
Lefua echigonia Jordan & Richardson, 1907

鳥取県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類(EN)



選定理由: 過去5年間で1個体しか確認されていない。過去に生息が報告された場所は、現在では全く生息が確認できない。

形態と生態: 全長6cm程度。体は円筒形で細長い。頭部は平たく、尾部は細い。口のまわりに4対のひげがある。湧水のある浅い砂泥底の水草の生えている場所を好み、春に水草や枯れ草に産卵する。

分布(県内): 鳥取市猪子, 横枕(両地点とも現在は確認

できない)用瀬町用瀬(千代川本流)。

分布(県外): 青森県と中国地方西部を除く本州と四国東部(日本固有種)。

生息環境: 一級河川中流域の岸より。

保護上の留意点: 湧き水のある細流をコンクリートの水路に改変して地下水を分断することのないような配慮が必要。

執筆者: 安藤重敏

アカザ ナマズ目アカザ科
Liobagrus reini Hilgendorf, 1878

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類(CR + EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)



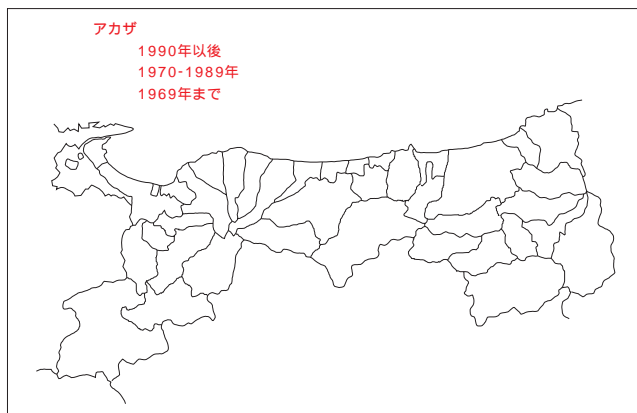
三朝町上西谷, 天神川水系 2002.1.19 / 撮影：中前雄一郎

選定理由：生息地が限定され、生息数も明らかに減少。

形態と生態：全長8cm程度。体型はナマズ型で4対の口ひげがある。体は鮮やかな赤褐色で、他の淡水魚類とは明瞭に区別できる。活動は夜間であり、増水時には、岸寄りへ移動する。

分布(県内)：三朝町(上西谷, 穴鴨天神川), 倉吉市(広瀬), 日野町内(黒坂, 日野川)で記録されるのみ。

分布(県外)：宮城県・秋田県以南の本州, 四国, 淡路島, 九州(日本固有種)。



生息環境：河川の上・中流域の石の下。

保護上の留意点：産卵床としての石, 水草, 岩の空隙や, 隠れ場としての浮石, 岩穴などが必要。水質汚濁や河川改修による環境変化に弱いので, 生息環境の維持には細心の注意を要する。

文献：

安藤重敏(1995)鳥取県日野川水系の魚類・鳥取県立博物館研究報告, 32: 1-14.

執筆：安藤重敏

メダカ ダツ目メダカ科
Oryzias latipes (Temminck & Schlegel, 1846)

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)



撮影：内藤順一

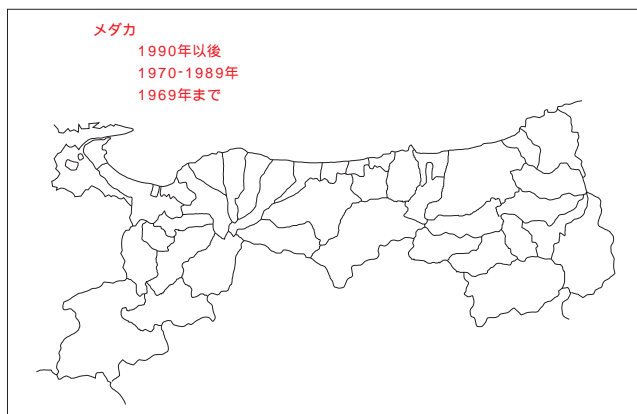
選定理由：生息地の宅地化, あるいは圃場整備による生息数の減少が顕著。

形態と生態：全長4cm程度。背びれは体の後方にあり, 口から背にかけてはやや縦扁する。口は上向きで, 下顎がわずかに突き出る。本種は顕著な昼行性で, 明るくなると活動し, 夜間は深場や水草の中で過ごす。動植物プランクトンや藻類を食べる。本州以南の日本各地に生息するが, 地域ごとに遺伝的な分化が進んでいる。たとえばミトコンドリアDNAの塩基配列による解析では島根県中部から鳥取県にかけての地域の集団にはこの地域に固有のハプロタイプが優勢することがわかっている。

分布(県内)：各地の平野部。

分布(県外)：本州, 四国, 九州, 南西諸島; 朝鮮半島, 中国大陸, 台湾島。

生息環境：河川下流の緩流域, 水田とその水路, 浅い沼



地などの止水域。

保護上の留意点：水温変化や塩分および水質汚濁には比較的強いが, 農薬や化学肥料には弱い。また, 生息水域の落差工や農業用水路のコンクリート化には配慮が必要。さらに, 安易な移植・放流は, 地域ごとに固有な遺伝的構成を乱すおそれが高いので厳に慎むべきである。

文献：

安藤重敏(1996)鳥取県千代川水系の魚類・鳥取県立博物館研究報告, 33: 1-14.

Matsuda, M., Yonekawa, H., Hamaguchi, S., & Sakaizumi, M. (1997) Geographic variation and diversity in the mitochondrial DNA of the medaka, *Oryzias latipes*, as determined by restriction endonuclease analysis. Zool. Sci., 14: 517-526.

執筆：安藤重敏

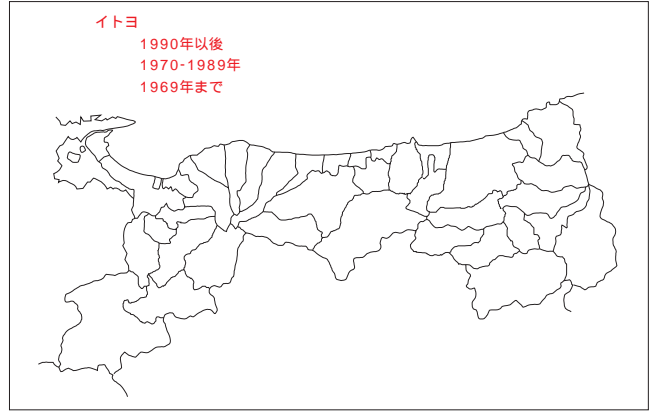
イトヨ トゲウオ目トゲウオ科
Gasterosteus aculeatus (Linnaeus, 1758)

鳥取県：絶滅危惧 II 類(VU)

環境省：-



雌 1994.5.16



選定理由：遡上確認河川の減少が著しい。個体数も減少している。

形態と生態：降海型と陸封型がみられるが、本県に生息するのは降海型のみ。全長10cm程度。背鰭に3本の棘がある。雄は4-5月の繁殖期に眼部と背が青く、喉から腹部にかけては赤くなる。雌は全体が銀色の光沢を増す。繁殖期の雄は、水底に枯れ草などで巣を作り、雌を誘い産卵させる。ふ化した仔魚は夏から秋にかけて海へ下り、翌年の春に成魚となって遡上する。近年は本県東部の河川での遡上事例しか報告されてしない。生息実態調査が必要である。

分布(県内)：1990年以降の生息確認地は、鳥取市湖山池

周辺、北条町江北浜(天神川)の2カ所のみ。

分布(県外)：日本海側で山口県以北、太平洋側で利根川以北の本州と北海道；北半球の亜寒帯から温帯。

生息環境：河川の下流域や小川・用水路および湖沼。

保護上の留意点：生息場所と海との移動を妨げないことと、産卵環境としての水生植物の保護や水質保全が重要。

文献：

建設省鳥取工事事務所(1980)千代川の生物。37 pp.

執筆：安藤重敏

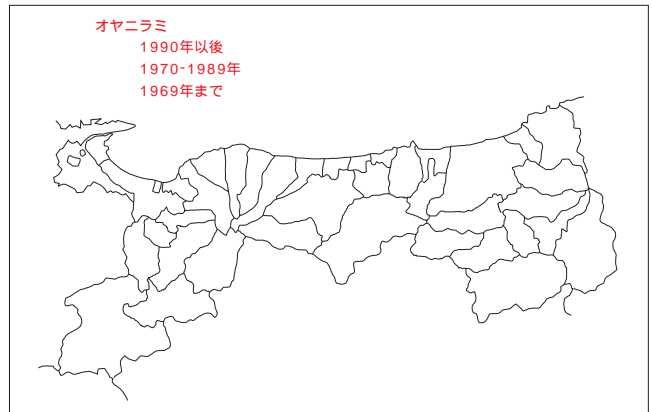
オヤニラミ スズキ目ケツギョ科
Coreoperca kawamebari (Temminck & Schlegel, 1843)

鳥取県：情報不足(DD)

環境省：準絶滅危惧(NT)



撮影：内藤順一



選定理由：県内の生息地の報告は1例のみ。

形態と生態：全長13cm程度。背びれは棘条部と軟条部がある。鰓ぶた後方にほぼ眼と同じ大きさの藍色の斑紋がある。流れの緩やかな水中植物の茎や葉に卵を産み付ける。産卵後は、雄が新鮮な水を送り込んだり、死卵を除去したりしながら卵を保護する。本州では淀川・由良川以西に分布するが、但馬地方から鳥根県東部までの日本海側の河川は分布空白地帯となっていた。鳥取県では日野町黒坂周辺の日野川で1994年に初めて見付き、産卵や幼魚の生息も確認されている。生息範囲を拡大している傾向も見られるので、その調査が望まれる。この日野川の集団が自然分布か人為的移入によるものかは不明である。

分布(県内)：日野町黒坂(日野川)。

分布(県外)：淀川・由良川以西の本州と四国北部、九州北部；朝鮮半島南部。

生息環境：大きな河川の中流域から下流の本流・支流。水のきれいな、流れの緩やかな場所を好む。

保護上の留意点：ヨシなどの抽水植物が繁茂し、流れの緩やかな河岸の保全が望まれる。また、細流や用水路のコンクリート化は生息環境の消失につながるため、慎重に検討すべき。

文献：

安藤重敏(1995)鳥取県日野川水系の魚類。鳥取県立博物館研究報告, 32: 1-14.

執筆：安藤重敏

カワアナゴ スズキ目カワアナゴ科
Eleotris oxycephala Temminck & Schlegel, 1845

鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：-



鳥取市袋川 1998.6.30

選定理由：本県が日本海側河川での唯一の生息域。

形態と生態：全長20cm程度。腹びれは吸盤状ではなく、左右に分離している。頭部は大きくその下面には白い斑点が散在する。体表は粘膜質を呈する。河川の河口域に生息し、日中はテトラポットや岩の空隙などに潜み、夜間に活動しているものと考えられるが、詳しい生態は不明である。鳥取県では1998年に初めて鳥取市浜坂で見つかり、続いて、日野川下流と鳥取市湖山川でも記録された。現在のところこれら3地点以外に日本海側本州における本種の記録はない。

分布(県内)：鳥取市浜坂旧袋川，賀露町湖山川，米子市日吉津日野川。



分布(県外)：茨城県以南の本州太平洋側，四国，九州，屋久島。

生息環境：比較的大きな河川の河口部汽水域。

保護上の留意点：河口域の護岸工事などでは，空石積護岸を用いるなどの配慮が必要である。

文献：

安藤重敏(1998)県内初記録 カワアナゴ・郷土と博物館，44(1)：18-19。

安藤重敏(1999)鳥取県産カワアナゴの採集と飼育の記録。郷土と博物館，44(2)：1-3。

執筆：安藤重敏

オオヨシノボリ スズキ目ハゼ科
Rhinogobius sp. LD

鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：-

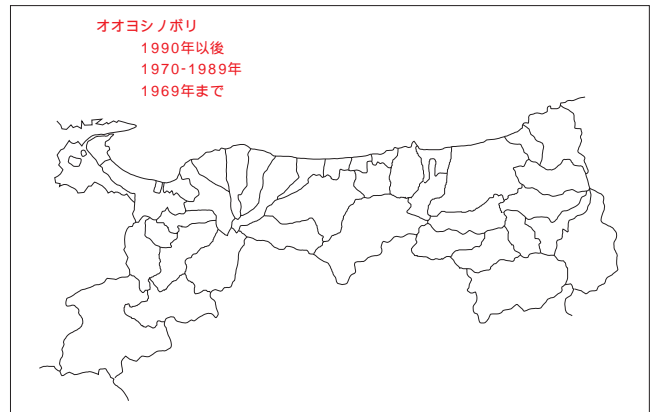


広島県八幡川 1986.9.14 / 撮影：田村龍弘

選定理由：生息地が限定され，個体数も少ない。

形態と生態：従来ヨシノボリ黒色大型(LD: Large Dark type)とよばれてきたものに相当。全長8cm程度。体型はシマヨシノボリ*Rhinogobius* sp. CB(Cross-Band type, =ヨシノボリ横斑型)に似るが，頬部にミズズ線がないこと，胸びれ基底上部に明瞭な暗色斑があることなどで区別できる。5-7月頃，石下に産卵。ふ化した仔魚はただちに海へ下り，数カ月後河川に遡上する。県内では千代川・日野川水系の中・上流域の限られた早瀬に生息するが生息数は少ない。近縁のシマヨシノボリと共存する水域では，本種の生息域が上流側に位置する。

分布(県内)：国府町(袋川)，船岡町(八東川)，米子市



八幡(日野川)，西伯町(法勝寺川)。

分布(県外)：北海道をのぞく日本全国。

生息環境：一級河川の中・上流域の人頭大の石礫が浮き石状態に散在する早瀬。

保護上の留意点：産卵には石礫のある河床が必要。また，降海するため，河川を横断する工作物には適切な魚道を設けることが重要である。

文献：

安藤重敏(1995)鳥取県日野川水系の魚類。鳥取県立博物館研究報告，32：1-14。

執筆：安藤重敏

アユカケ カサゴ目カジカ科
Cottus kazika Jordan & Starks, 1904

鳥取県：準絶滅危惧(NT)

環境省：-



2001.1.14



選定理由：河川改修により、従来の生息域までの遡上が困難となっており減少傾向にある。

形態と生態：別名カマキリ。全長15-20cm。前鰓蓋骨の後縁に4本の棘があり、一番上の1個は大きく上向きに曲がる。体色は灰褐色で、背側には4本の黒色の帯がある。成魚は河川の中流域に生息。秋に産卵のために下流域から河口域へ流下する。幼魚は春に海から遡上する。移動能力が低く、低い堰でも遡上が阻害される。県内の一級・二級河川に生息しているが、個体数は確実に減少している。

分布(県内)：陸上川(岩美町), 千代川(鳥取市, 河原町), 河内川(気高町), 天神川(北条町, 倉吉市), 佐陀

川(日吉津村), 日野川(米子市), 法勝寺川(米子市)。

分布(県外)：日本海側は秋田県, 太平洋側は神奈川県以南の本州, 四国, 九州(日本固有種)

生息環境：河川中流域の石礫底

保護上の留意点：落差の小さな堰でも遡上が阻害されるため、中～下流域の河床の改変には注意が必要である。

文献：

安藤重敏(1993)アユカケ。pp. 98-99. In: 鳥取県のすぐれた自然(動物)。

安藤重敏(1994)鳥取県天神川水系の魚類。鳥取県立博物館研究報告, 31: 33-46.

執筆：安藤重敏

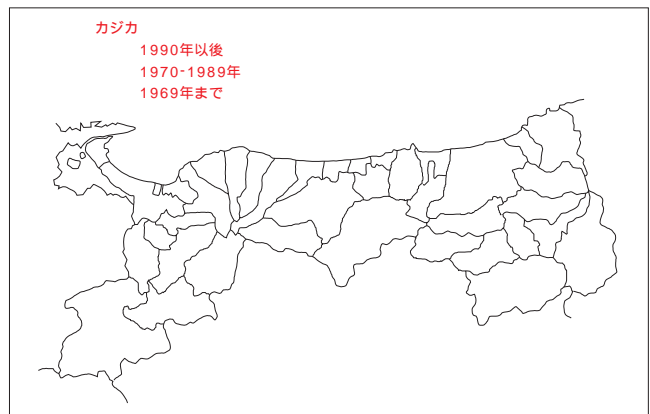
カジカ カサゴ目カジカ科
Cottus pollux Gunther, 1873

鳥取県：絶滅危惧II類(VU)

環境省：-



撮影：内藤順一



選定理由：ダムや砂防堤の増築や流量の減少で生息環境が減少し、近年は限られた場所では確認できない。

形態と生態：全長15cm程度。河川の上流域に生息し、年間を通して水温が低く水の澄んだ瀬の礫底を好む。肉食性で、おもに付着性の水生昆虫を捕るが、他に流下昆虫や底生小動物なども食べる。河川上流域の礫底に生息する。近年ダムや砂防堤の増築や流量の減少により安定した生息環境が減少している。以前は、二級河川でも生息していたが、近年は限られた場所ではその姿を確認することができなくなっている。本種には卵径などで区別できる大卵型, 中卵型, 小卵型の3型(遺伝的にも分化しており生殖隔離もみられるため事実上, 別種とみられる)があるが, 本県のもののがどれに該当するかは未調査。

分布(県内)：野坂川(鳥取市), 天神川(三朝町), 日野川(米子市)。

分布(県外)：本州と四国, 九州の一部(日本固有種)。

生息環境：年間を通して水温が低く水の澄んだ上流域の礫底。

保護上の留意点：浮き石の礫層が生息地なので、周辺工事等による土砂の流入を避けることが重要。産卵床として、人頭大の礫が必要。他の河川からの導入は在来個体群の遺伝的構成を乱すため、避けるべきである。

文献：

安藤重敏(1994)鳥取県天神川水系の魚類。鳥取県立博物館研究報告, 31: 33-46.

執筆：安藤重敏